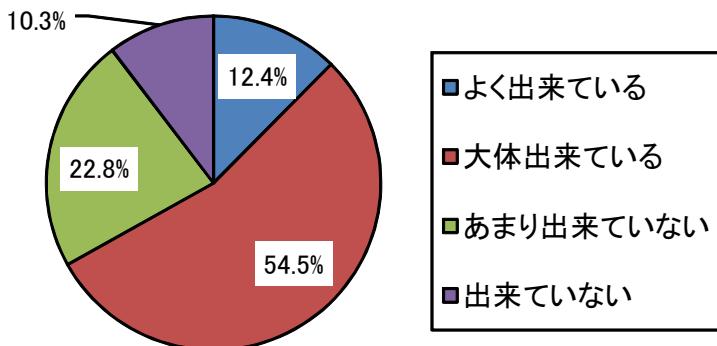


平成28年度 学校教育活動保護者アンケート結果

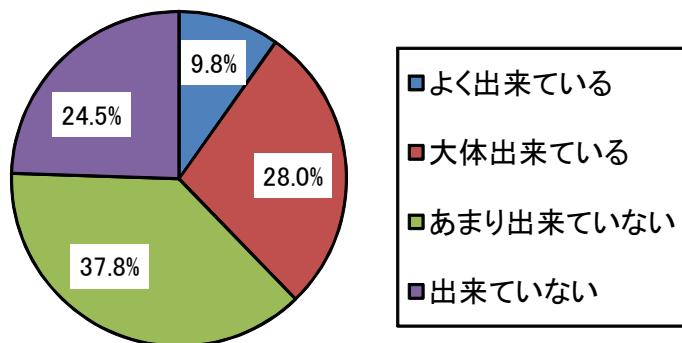
平成28年7月実施

学習活動

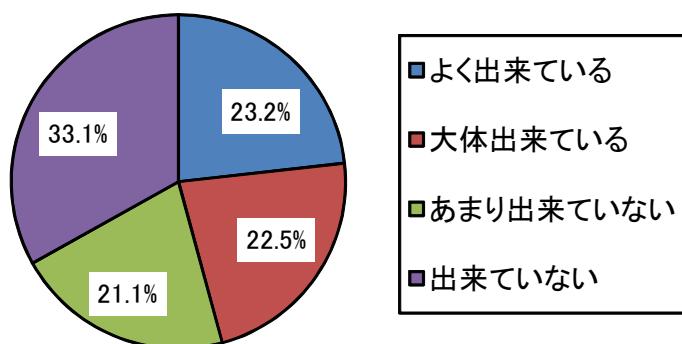
ジョイントおよび学習確認プログラムや総括テストの結果を子どもと共有できている。



家庭学習を1日1時間以上できている。(塾等の時間を含む)



月に1冊以上の本を読んでいる。



①テストなどの共有について

約65%がテストなどの結果を共有しているという現状である。この結果は決して高いとはいえない。理想的にはすべての保護者に子どものテストなどの結果を共有してもらい、子どもの学力実態を把握してもらいたい。保護者の関心の高さ、子どもとの関わり方が、子どもの基本的な学習習慣の確立に大きな影響を与えるので、もっと多くの保護者にテストなどの結果の共有・把握をしてもらうように働きかけていきたい。

②家庭学習の時間について

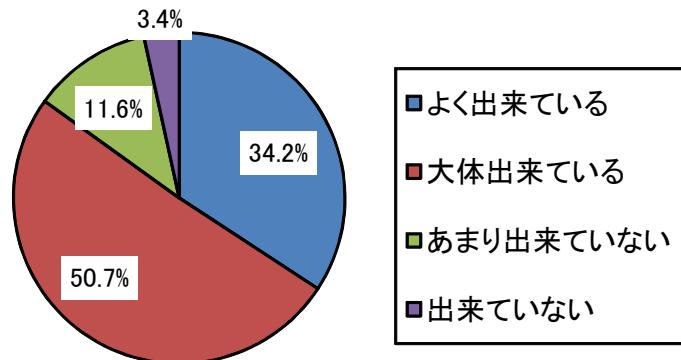
1時間以上の学習ができるいないという回答が残念ながら約62%と高い結果が出ている。家庭学習が学力向上に重要であることは自明の理であるが、現実には家庭学習が十分できていないという結果が見て取れる。各教科からの宿題や週末課題などの工夫をして行く必要がある。

③読書について

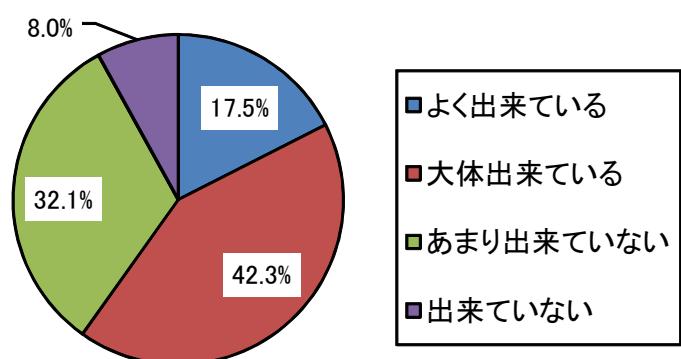
月に1冊以上の本を読んでいるのは50%に満たない。読書力は国語のみならず学力全般のベースの力となるので、読書量を増やし、ベースの力をアップし学力全般の向上につなげていきたい。

規範意識

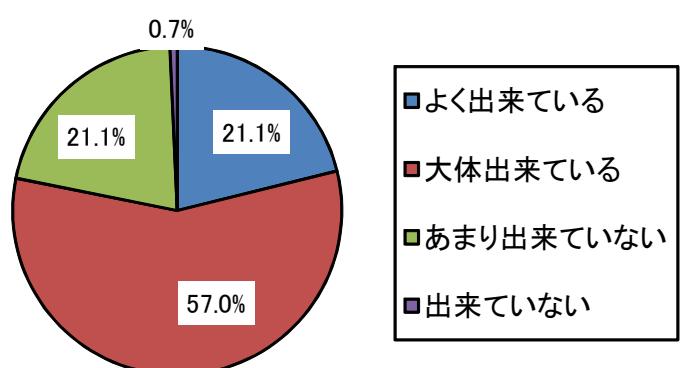
子どもは学校のきまりをきちんと守って生活できている。



家庭で携帯・スマフォの使い方について決まりをきめている。



子どもは進んで挨拶できている。



①規範意識について

学校のきまりを守って生活できていると感じている保護者は約85%にものぼる。実際の学校生活においても、その感覚どおりだと思われる。現に校則違反や問題行動も大変少ない状態にある。さらなる意識向上を目指したい。

②携帯などの使用について

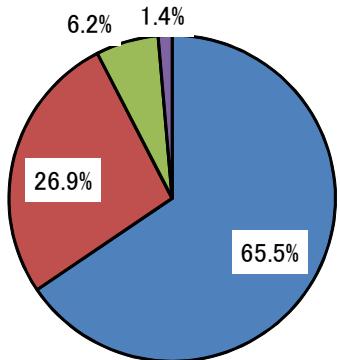
生徒の調査からスマホなどの普及率は約7割を超えてい。ところが、各家庭でその使い方についてきまりを決めているのは6割程にとどまっている。昨今のSNSがトラブルや生活習慣の乱れを助長している現状を考えると、各家庭でのルールづくりと定期的な検証は必要である。子どもたちをトラブルや被害から守るためにも、今後一層スマホなどの使い方の指導をしていかなければならない。

③あいさつ等の習慣について

進んであいさつをしていると感じている保護者は約80%となっている。実際に自分から進んで挨拶のできる生徒は多い。学校でのあいさつ運動や部活動でのあいさつ指導が一定身についていると評価できる。今後、さらに向上できるよう生徒会活動などとタイアップして学校総体で意識向上を目指したい。

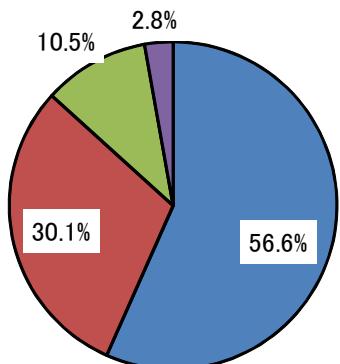
基本的生活習慣

朝食を毎日きちんと摂っている。



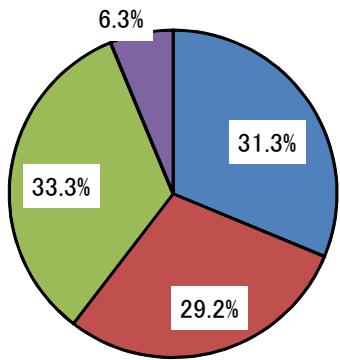
- よく出来ている
- 大体出来ている
- あまり出来ていない
- 出来ていない

毎日21時までには夕食を終えている。



- よく出来ている
- 大体出来ている
- あまり出来ていない
- 出来ていない

毎日十分な睡眠時間が摂れている。(概ね23時までには就寝し、7時までには起床している)



- よく出来ている
- 大体出来ている
- あまり出来ていない
- 出来ていない

①朝食について

一日をスタートするのに朝食をとることが大切であるということは定説である。本校の実態はアンケートから90%を越える生徒が朝食を食べて登校している。この結果は評価できるが、残りの約10%の生徒が気になるところである。バランスのとれた朝食をしっかり食べて登校してもらいたい。

②夕食の時間について

夕食の時間についても85%の家庭で21時までに終えているという結果が出ている。このことは早く就寝することにもつながり、①の朝食と合わせて、基本的な生活習慣が定着している率が多いと判断できる。しかし、少数とはいえた食事が遅い生徒がいることに課題が残る。

③睡眠時間について

睡眠時間については食事と比べると基本的な習慣が確立されていないと言うことがアンケート結果からうかがえる。睡眠時間が十分でない学校生活や友だち関係にもよい影響を及ぼさないことは明らかである。できていない約40%について改善できるようにすることが重要である。

